

第14節 祝！家族5人の初旅行

こどもを連れての旅行は、これが始めてではなかったが、今までに行った芦原温泉、飛騨高山（2 2 行けるうちに行ってしまう）、伊勢鳥羽は、いずれも私の父母が付いて来てくれたので、オムツやタオルにはじまる諸々のあかちゃんグッズがあっても、人数に関して おとな > こども だったため、移動手段が自家用車でなくても荷物はなんとかなった。

今回はジジババ抜きのお真正銘家族旅行である。

夫婦 + マサミツ6歳10ヶ月 + リョウ3歳10ヶ月 + タイ3歳10ヶ月
の5人で、旅行をしようと思いついたのは、夫が結婚以来はじめて、夏休みに有給休暇をくっつけて10日間も仕事を休むことにしたからだ。

今回を逃せば、もうこんな長い休みはないかもしれないという危惧と、「明日から10日間休みやし」と、文字どおり急な話だったので、お盆のお墓参りなどの日程を別にたてたとしても、きっと持て余すだろうし、1泊2日くらいの旅行なら計画してやるう！という最近では稀にみる意気込みがあったからだ。

旅行ってというのは、計画しているうちが一番楽しいのだが、こういう急な場合も結構いい。週間天気予報をにらんで、天気の具合がおおよそ予測できるのもいい。

今回の場合、一番私を奮い立たせたのは、ふたごたちのオムツがもういらなくなってこと。ふたりぶんの1泊のオムツは結構な荷物だ。それが完全に不要であることは、車を持たない我が家の旅行には大きなポイントである。

加えて、お兄ちゃんに自分の荷物を自分で持たせることにしたのも、親にとっては嬉しいことであった。真夏であったので、もともと着替えも量は少なくすむし、3人分のおやつや水筒、退屈しのぎのメモ帳と6色のクレヨンも軽々持ってくれる。

ふたごたちは手ぶらか？って。よく、リュックを背負ったよちよち歩きのこどもに出会う。こどもってというのは、親のマネをして、かばんやリュックを持ちたがる。実際、私も、散歩するときに、オムツ2枚入りのリュックを背負わせたことがある。

しかし、旅行の時に、小さい子にはリュックは不必要だ。案の定、ふたごたちもお兄ちゃんのようにリュックを背負いたいと言ったが、頑としてOKしなかった。

だって、必要なものを入れても、ずっと背負い続けてくれるという保証はないし、 unnecessaryなものを入れているのに、抱っこせざるを得ない状況になれば、その分の重さが抱っこに加算されるのが許せないのだ。

さて、行く先は簡単に決まった。前から行きたかった倉敷子ボリ公園だ。家から2時間かからずに行けるし、ふたごたち憧れの新幹線にも乗れる。

明後日の出発を予定していたが、幸運に幸運が重なって、新幹線の指定席も取れたし、宿も予約もOKで、おまけに雨模様の空が西に行くにしたがって晴天になり、勝負運の強い旅行となった。

着きました、倉敷チボリ公園。

はっきり言っておこう。小さいこどもがいる場合。ここは大正解の遊園地である。実際に、ベビーカーがとても多かったし、ちょっと休憩できる木陰やベンチがあっちにもこっちにもあった。

半日あれば隅々まで回れるこじんまりした大きさなので、ディズニーランドに慣れているおとうさん、おかあさんには物足りないかもしれないが、こどもがいる場合にはこのくらいがちょうどいい。

何とんでも、こどもを抱っこしたまま乗れる乗り物が多いのが良い。超スローなジェットコースターは、リョウやタイに大好評であった。ほとんどのものが、ゆっくり、ゆったりなので、見ているだけで安心である。

私個人としての一押しは、メリーゴーランド。驚くなかれ、ここのメリーゴーランドは馬と馬車だけではない。ブタ、だちょう、パンダ、犬、うさぎ……などの面々が鏡とキラキラの電飾で飾られた空間を上下する。

順番待ちの間、なんだかおかしなその光景をながめて、不思議と幸せであった。夜になれば公園全体が赤、青、紫、黄色などの電球ライトで浮かび上がるので、できればメリーゴーランドは夜にどうぞ。

噴水も多い。冬はどうかと思うが、暑い盛りに水しぶきがキラキラしているのは、とても気持ち良かったし、決して水がきれいだったとは言えないが、手をつけて涼をとりながら（実はTシャツはベチョベチョ）楽しんでいた。

ここは劣る！と感じた点も挙げておこう。

まず、売店。経営難からの人員削減が原因と思われるが、あまりにもスタッフが少ない。金銭の授受、包装をひとりの人がしていて、誠に時間がかかる。思わず手伝いたくなる。

次に夜の花火。近隣がすぐ民家なので、連日連夜の打ち上げ花火は相当遠慮している状態。想像するに、倉敷チボリ公園建設時からの約束になっているのではないかと私は勝手に予測したくらいだ。公園中央の池面を使った水上花火が少しと、背の低い打ち上げ花火でおさまっていた。

まあ、花火に関しては、小さいこどもに煙モクモクは、あまり好まれないだろうし、第一、「ホラ、花火よ！きれいでしょ？」などと、言っても、よそを向いている確率も高い。リョウはドーンという音が恐かったらしく、「帰ろ！」と連呼し出した。

最後に、これはちょっと言いにくいことだが、ここには日本語と英語とデンマーク語が混在しているということ。本家チボリ公園は、デンマークの首都コペンハーゲンにあるので、仕方がないことなのだが……。先に紹介した「メリーゴーランド」の標記は「アニマルカールセル」であり、「急流すべり」は「フラーングフォール」となる。まあ、最初だ

け???と思ったりするけど、楽しいので許すし、すぐ慣れる。

倉敷チボリ公園は駅舎から直結されており、また、宿泊場所は大人の足で歩いて25分程であったが、何度もタクシーを利用した。たとえ荷物が少なくても、小学校1年生になったお兄ちゃんとはもかく、幼稚園年少のふたごたちは、まだ“荷物”の部類に属するので、グチュグチュ言う前に目的地に到着すべく、極力、移動には体力を使わないでおきたかったのだ。

一旦、ひとりが「抱っこ!」という、もうひとりも言うに決まっているし、体重の少ない方でも14キロ近くあるので、悲惨な状況だけは避けたかったからだ。結果から見て、これは大正解。

宿には車で来られている家族も多かったが、小さい子どもがベビーカーを必要としないのなら、特にそれがふたごであったりする場合には、パパもママも運転手になるのはお休みするのモ一案であろう。

ちなみに、倉敷チボリ公園には併設駐車場はない(2003年8月現在)。案内書には「駐車場は、近隣の有料駐車場をご利用ください」と書いてある。

我が家は、倉敷で1泊した後、岡山城、後樂園をまわって京都に帰った。

西日本の小さいお子さんをお持ちのみなさん。倉敷チボリ公園はオススメよ。

もう、今回の旅行はめっちゃ楽しかった。

突然に計画して準備万端、天候抜群、健康状態よし。

私は、この旅行を忘れない。今まで、いろんな人といろんな形で旅をしたが、今回の家族5人での旅行は本当に楽しかった。目一杯楽しんだ。

子どもたちは、乗り物の本で予習していた新幹線に乗れて出発時から大満足で、おまけに、普段は制限されているジュースやアイスクリームもたくさん食べられたし、初めての本格的ピザやアイスミルクティーに悲鳴を上げて喜んでいたし.....。

倉敷美観地区にある大原美術館は、ミュージアムグッズショップを独立して持っており、私は、そこで「受胎告知」の絵葉書を自分へのお土産に買った。

マリアのもとに、天使ガブリエルが神の子の受胎を告げに来る場面である。

マサミツがお腹の中にいる、とわかった時の感覚。

お腹の中にふたごがいる、と告げられた時の衝撃。

一番はじめに私のお腹にいた、流れてしまった子.....。

そんなにおおげさな山あり谷ありではなく、まして、今から思えば“谷”はなかったような恵まれた40年の人生で、この旅行はちょっとした記念であった。

家族5人だけの初旅行。バンザイッ!

倉敷チボリ公園インフォメーションセンター

〒710-0813 岡山県倉敷市寿町12-1 (JR 倉敷駅北口前1分)

tel . 086-434-1111 <http://www.tivoli.co.jp>

ベビーカーレンタル：利用料金500円。返却時に200円保証金として払い戻し。

授乳室：あり

ベビーセンター：授乳、食事、おむつ交換。紙オムツ・粉ミルク・離乳食の販売。

5歳以下の幼児の入園は無料。

4～5歳の幼児は、入園は無料だが、アトラクションの利用は有料。

チケット料金と種類、アトラクションの年齢・身長等による制限については上記インフォメーションセンターに直接お問い合わせください。